

長野県茅野市方言



長野県方言区画図

【長野県の方言区画】長野県は、面積が広く（北海道、岩手県、福島県に次ぐ）、また日本の屋根とも呼ばれる険峻な山岳地帯が人々の交流を阻むと同時に盆地ごとの結束を強め、その結果、多様な民俗文化、明瞭な方言差が生み出された。このことは一方で県の一体感の欠如にもつながり、県名の「長野」は北部の県庁所在地を意識させることから、旧国名の「信州」「信濃」の方が好まれる傾向がある。

方言区画図は、長野県(1992:9、執筆:馬瀬良雄)に基づく。推量辞は、中信方言ではズラがさかんに使用されるが、北信方言ではダラズが一般的である。東信方言では「ひ」がシに統合される(「東」シガシ)。南信方言では動詞否定辞にンが使われる。奥信濃方言は[ɔ]と[o]による開合の区別を持つ。日本全体から見た場合、長野県全域は東部方言の西端に位置する東海東山方言に含まれ、西部方言に接する。そのため、西部方言的特色が現れることもある。

なお、県内方言区画名に含まれる「～信」は、一般の県内地域区分名と重なるが、指す地理的範囲は必ずしも一致しない。それゆえと推測されるが、馬瀬(2003)は、信州・東北部方言(奥信濃方言)、信州・北部方言(北信方言)、信州・東部方言(東信方言)、信州・中部方言(中信方言)、信州・南部方言(南信方言)という用語を用いる。

【茅野市方言について】茅野市は八ヶ岳西側の裾野に広がり、集落の標高は約800~1100m(市庁舎としての標高は日本最高)、農業・観光・精密工業を主産業とする。茅野市方言は、中信方言の南東に位置する。連母音のaiとaeは「タケー(高い)」「へー(蠅)」のようにかなり義務的に[e:]で現れる(ただし、北山地区柏原集落のみ[eja]で現れる)。また語中のガ行音は鼻濁音(ŋ+母音)で現れ、濁音(g+母音)での発音は方言音声としては否定される。終止形・連体形の区別は持たないが、連体形をもとにした準体法を保持している。ここでは本報告書の共通方針に従い、接続類の連体形に含めて扱ったが、本来は派生類として扱うべきである。敬語(丁寧語・尊敬語)は命令形の一部を除くとほとんど使われない。なお、〈求心性授与形〉として扱ったテール形(ケーテール:書いてくれる、等)は、県内ならびに本土方言では、先行報告がほとんど知られていない。

【表記について】前述の通り、濁音との異なりが明瞭に意識されるガ行鼻濁音が用いられる。これらは、ガ・ギ・グ・グ・ゴにより表記する。

【調査概要】茅野市の北山地区に含まれる糸萱集落生え抜きのMY氏(1942年生まれ)とIT氏(1950年生まれ、ともに男性)から、2017~2018年にわたって、聞き取り調査を行った。お二人はいとこで、ことばの差はほとんどないが、年長のMY氏の方がやや古い形式を保持している傾向がある。調査にあたり、糸萱区誌編纂委員会編(2011)・茅野市(1988)・長野県諏訪実業高等学校地歴部(1961)を参考にしたが、ここには、調査で得られた結果のみを挙げた。

長野県茅野市方言の活用表

《動詞》

		多段型 書く	一段型 見る	来る	する
終止類	断定非過去	カク	ミル	クル	スル
	断定過去	ケータ	ミタ	キタ	シタ
	命令	カケ カカッセー ¹ オカキナシテ	ミロ ミラッセー ² ミサッセー ³	コイ コラッセー ⁴ コサッセー ⁵ オイデナシテ	シロ シラッセー ⁶ オシナシテ
	依頼	ケートクレ	ミトクレ	キトクレ	シトクレ
	禁止	カクナ	ミルナ ミンナ	クルナ クンナ	シルナ シンナ スルナ スンナ
	意志	カカズ カカッカ	ミラズ ミラッカ	コラズ コズ コラッカ コッカ クラッカ	シラズ シズ シラッカ シッカ
	勧誘	カクジャー	ミルジャー	クルジャー	スルジャー
	推量非過去	カクラ	ミルラ	クルラ	スルラ
	推量過去	ケツラ	ミツラ	キツラ	シツラ
接続類	連体非過去	カク	ミル	クル	スル
	連体過去	ケータ	ミタ	キタ	シタ
	中止	ケーテ	ミテ	キテ	シテ
	仮定	カキヤ	ミリヤ	クリヤ	スリヤ
派生類	否定	カカネー	ミネー	コネー	シネー
	とりたて否定	カキヤシネー	ミリヤシネー	クリヤシネー	シリヤシネー
	確信否定	カキッコネー	ミッコネー	キッコネー	シッコネー
	丁寧	(該当形 欠)	(該当形 欠)	(該当形 欠)	(該当形 欠)
	使役	カカセル カカス	ミサセル ミラセル ミサス	コサセル コラセル コサス	サセル
	受身	カカレル	ミラレル	コラレル	サレル
	可能	カケレル カケル カケール	ミレレル ミレル ミレール	コレレル コレル キエール	(該当形 欠) シエール
	尊敬	(該当形 欠)	(該当形 欠)	(該当形 欠)	(該当形 欠)
	継続	ケーテール ケーテル	ミテール ミテル	キテール キテル	シテール シテル
	求心性授与	ケーテール	ミテール	キテール	シテール
	求心性受納	ケーテモロー	ミテモロー	キテモロー	シテモロー
	希望	カキテー	ミテー	キテー	シテー
	のだ	カクダ	ミルダ	クルダ	スルダ

多段型動詞の基幹音便形

語幹末子音	語例	活用形例 (過去形)	作り方	
k	書く	kak·u	ケー-タ	kをiにする。語幹末子音の前がaの場合は、連母音の融合が起こる。「行く」ik·uはkをQ(促音)にし「イッ-タ」。
ŋ	研ぐ	tonj·u	トイ-ダ	ŋをiにする。語幹末子音の前がaの場合は、連母音の融合が起こる。-タが-ダになる。「死ぬ」siŋ·uはŋをN(撥音)にし「シン-ダ」
s	出す	das·u	デー-タ	sをiにする。語幹末子音の前がaの場合は連母音の融合が起こる。語により音便形ではない基幹イ段形も用いられる。
t/c	立つ	tac·u	タツ-タ	t/cをQ(促音)にする。
n	死ぬ	sin·u	シン-ダ	nをN(撥音)にする。-タが-ダになる。なお、siŋ·uもあり、多く使う。
b	飛ぶ	tob·u	トン-ダ	bをN(撥音)にする。-タが-ダになる。
m	飲む	nom·u	ノン-ダ	mをN(撥音)にする。-タが-ダになる。
r	取る	tor·u	トツ-タ	rをQ(促音)にする。
w/ø	言う	ju(w)·u	ユツ-タ	wをQ(促音)にする。

《形容詞・形容名詞述語・名詞述語》

		赤い	静か (だ)	雨 (だ)
終止類	断定非過去	アケー	シズカダ	アメダ
	断定過去	アカカッタ	シズカダッタ	アメダッタ
	推量	アケーラ	シズカズラ	アメズラ
接続類	連体非過去	アケー	シズカナ シズカン	アメノ
	連体過去	アカカッタ	シズカダッタ	アメダッタ
	中止	アカクテ	シズカデ	アメデ
	仮定	アカケリヤ アカキヤー	シズカナラ	アメナラ
派生類	否定	アカクネー アカカネー	シズカジャネー	アメジャネー
	なる	アカクナル	シズカニナル シズカンナル	アメニナル アメンナル
	丁寧	(該当形 欠)	(該当形 欠)	(該当形 欠)
	のだ	アケーダ	(該当形 欠)	アメナンド

1. 動詞の活用の特徴

(1) 活用型と語類の対応

規則的な活用型として基幹多段型(以下「多段型」と基幹一段型(以下「一段型」)がある。おおよそ、多段型にはa類(「書く」「居る」「死ぬ」類)動詞、一段型にはb類(「見る」「起きる」「開ける」類)動詞が所属する。

多段型の基幹にはア・イ・ウ・エ段の4形、および、音便形がある。融合によりア段拗音となること

もある。「カク」(書く)の場合、カカ-ネー(kak·a-neR)、カキ-テー(kak·i-teR)、カク(kak·u)、カケ(kak·e)、ケー-タ(keR-ta)、カキヤ(kak·ja)など。また、語幹末子音には、k(カ行)、ŋ(ガ行)、s(サ行)、t(タ行)、n(ナ行)、b(バ行)、m(マ行)、r(ラ行)、w(ワ行)がある。語例は、表「多段型動詞の基幹音便形」を参照(「死ぬ」はŋ語幹とn語幹の両方がある)。

一段型には、ミ-ル(mi-ru)、オキ-ル(oki-ru)な

ど基幹がイ段の動詞と、ネ-ル(ne-ru)、アケ-ル(ake-ru)など基幹がエ段の動詞がある。一段型の活用形のうち、多段型のr語幹動詞に対応した形は、「ミル」を例にすると、断定非過去形ミ-ル (mi-ru)、命令形ミ-ラッセー (mi-rasseR)、禁止形ミ-ルナ (mi-runA)、意志形ミ-ラズ (mi-razu)、ミ-ラッカ (mi-rakka)、勧誘形ミ-ルジャー (mi-ruzjaR)、推量非過去形ミ-ルラ (mi-rura)、仮定形ミ-リヤ (mi-rja)、とりたて否定形ミ-リヤシナー (mi-rjasineR)、使役形ミ-ラセル (mi-raseru)、受身形ミ-ラレル (mi-rareru)、可能形ミ-レレル (mi-rereru)、ミレ-ル (mi-reru)、ミ-レー ル (mi-reRru)、準体形ミ-ル (mi-ru)、のだ形ミ-ルダ (mi-ruda) であり、この方言のr語幹化の進行度合いは共通語以上である。

不規則な活用をする動詞として、「クル」(来る)、「スル」(為る)がある。「クル」は、キ-タ (k-i-ta)、ク-ル (k-u-ru)、コ-ネー (k-o-neR) などのように、基幹が「キ」「ク」「コ」の3段にわたる。「スル」は、サ-レル (s-a-reru)、シ-タ (s-i-ta)、シ-ルナ (s-i-runA)、ス-ル (s-u-ru) のように、基幹が「サ」「シ」「ス」の3段にわたる。なお、「スル」は、断定非過去・連体非過去形シルが近隣地域でかつて用いられていたことが知られており、禁止形のシルナとスルナやシンナとスンナの併用やとりたて否定形シリヤシナーはその名残である。また、「クル」の命令形コラッセー、意志形コ-ラズ、コ-ラッカ、ク-ラッカ、とりたて否定形ク-リヤシナー、使役形コ-ラセル、「スル」の命令形シ-ラッセー、意志形シ-ラズ、シ-ラッカ、とりたて否定形シリヤシナーにr語幹化の進行が確認される。

(2) 各活用形の特徴

〈断定非過去形〉

多段型動詞は「カク」など基幹ウ段型となる。一段型動詞は「ミル」など「基幹(=語幹)+ル」、「来る」「する」は「ウ段形+ル」で「クル」「スル」となる。

〈断定過去形〉

多段型動詞は基幹音便形に、一段動詞は基幹(=語幹)に、「来る」「する」はイ段形「キ」「シ」に、「タ」を後接する。

〈命令形〉

命令形は3種類ある。

一つは一般的な命令形で、多段型動詞では「カケ」などエ段形、一段型では「ミロ」など「基幹+ロ」、「来る」では不規則な「コイ」、「する」では「イ段形+ロ」で「シロ」となる。終助詞は「ヤイ」などが付く。

- ・イケヤイ。(行けよ)
- ・アケロヤイ。(開けろよ。)
- ・コイヤイ。(来いよ。)
- ・シロヤイ。(しろよ。)

二つ目と三つ目は、形の上では尊敬語をもとにするが、尊敬語は命令形しか現れない。

二つ目は、多段型動詞のア段形にサッセーを、一段型動詞の基幹、「来る」は「コ」、「する」は「シ」にラッセーもしくはサッセーを付けた形である。おもに親など身内の年長者に対して用いる。

- ・イスノ シタニ ナニカ コロンダデ オレガ ヒロウデ タタッセー。(椅子の下に何か転がったから、自分が拾うから、立ってください。)

三つ目は、おもに身内以外の年長者に対して用いられる形で、いずれも接頭辞才を付与し、多段型動詞のイ段形、一段型動詞の基幹、「する」は「シ」にナシテを付けた形である。「来る」は語彙的交替による不規則な形「オイデ」にナシテを付ける。一段型の「見る」「いる」は、この形をとることができない(「いる」に対してオイデナシテは用いられない)。一段型動詞の「寝る」は基幹と語彙的交替の両方があり(オネナシテ、オヤスミナシテ)、オヤスミナシテは夜の別れのあいさつとしても用いられる。なお、接頭辞の才は基本的に省略できない。

- ・チョーチンノ ヒ オケシナシテ。(提灯の火を消してください。)
- ・オオキナシテ。(起きてください。)
- ・ドーゾ ゴジューニ オシナシテ。(どうぞ、ご自由にしてください=どうぞ勝手にしろ、と言い放すようなニュアンス。)

〈依頼形〉

多段型動詞は基幹音便形に、一段型動詞は基幹に、「来る」「する」はイ段形にトクレを付ける。話し相手に行動を依頼する場合に用いる。(後述するようにテクレル形は未確認であり、相互の関係は課題であ

る。)

- ・コンド ブラクベツタイコーガ アルデ オ
メー トンドクレ。(今度、集落別対抗戦があるから、お前が走ってくれ。トブ=走る)

〈禁止形〉

断定非過去形にナを付ける。「する」はシルナもある。いずれの場合もナの前がルの場合は、ルを撥音に交替させた形、「取る」トンナ、「見る」ミンナ、「来る」クンナ、「する」スンナ、シンナもある。なお、この地域では古典語の「な～そ」に対応するナナオカキ（書くな）やカイチヨ（書くな）があったことが知られているが、現在は近隣を含めて、ほぼ消失した。

- ・ホンナ コト シンナ。(そんなことをするな。)

〈意志形〉

多段型動詞はア段形、「来る」はオ段形、「する」はイ段形にズを付ける。一段型動詞は基幹にラズを付ける。「来る」「する」はコラズ、シラズもある。終助詞カ、イが付くことがある。

- ・テガミヨー カカズカヨ。(手紙を書こうかな。)
- ・トーキョーエ イカズカヨ。(東京へ行こうかな。)
- ・トラズカヨ。(取ろうかな。)
- ・トラズイ。(取ろうね。)

終助詞カを付与した形は、反語として用いることもできる。

- ・ダレガ カカズカ。(反語：誰が書くものか。
=書かない。)
- ・ソンナトコ イカズカ。(反語：そんなところ
に行くものか。
=行かない。)
- ・ダレガ ユワズカ。(反語：誰が言うものか。
=言わない。)

いずれも末尾のズを促音に交替させた上で、力を付けた形もある。(なお、この形が反語に使えるかどうかは未確認。)

- ・ヘーニナッチモーデ オキノウチニ ケサツカ。((炭焼き作業で、これ以上燃やすと)灰になってしまないので、熾火のうちに消そう。)
- ・ヒサシブリニ シャシンオ トラッカ。(久しぶりに写真を撮ろう。)
- ・ライシューモ マタ ヨッカ。(来週もまた来よう。)

- ・アシタ マタ クラッカ。(明日また来よう。)

さらにその後にシラネー、トモーを付与した形(後者は「と思う」に由来すると考えられる)も意志形として用いられる。

- ・イママデ ユワナンダガ コンドワ ヘー ユワツカシラネー。(今までいわなかつたが、今度はもう言おう。)
- ・マゴガ アソンデルデ シャシンオ トラッカシラネー。(孫が遊んでいるので、写真を撮ろう。)
- ・キノーノ ツズキノ マメトリノ シゴト シラッカシラネー。(昨日の続きの豆取りの仕事をしよう。)
- ・イママデ ネーショニ シトイタガ ユワツトモーガ イーラ。(今まで内緒にしておいたけれども、言おうと思うけれども、良いだろう?)

〈勧誘形〉

断定非過去形にジャーを付ける。「行く」はイジャーとしても用いられる。ジャーはジャンに交替させることもできる。

- ・ヘー サンザ アソンダデ ジオ カクジャニ。((子どもに対して)もうさんざん遊んだから、字を書こう。)
- ・イッショニ ジオ カクジャン。((孫に)いつしょに字を書こう。)
- ・イッショニ イクジャニ。(いつしょに行こう。)
- ・ボツボツ ハジマルデ イッショニ イジヤ。(ぼちぼち始まるので、いつしょに行こう。)
- ・イッショニ ユージヤニ。(いつしょに(口に出して)言おう。)
- ・イッショニ ノムジャニ。((酒を)いつしょに飲もう。)
- ・イッショニ ミルジャニ。(いつしょに見よう。)

動作主体に話者自身(一人称)が含まれない場合は、「感心」のニュアンスを含めて表現する。

- ・アノヒトワ ウメー ジオ カクジャニ。(あの人には、うまい字を書くなあ。)

〈推量形〉

断定非過去形にラを付ける。動詞が表す内容の実現を推量(予測)する。

- ・コノ チョーシダト アスニモ タツラ。(こ

の調子だと、(赤ん坊は) 明日にも立つだろ
う。)

- ・タチッコモ アスニワ トブヲ。(小鳥も明日には飛ぶだろう。)

なお、類似した意味を表すズラについては〈のだ形〉を参照のこと。

〈推量過去形〉

多段型動詞は基幹音便形に、一段動詞は基幹(=語幹)に、「来る」「する」はイ段形「キ」「シ」に、「ツラ」を後接する。動詞が表す内容の過去における実現を推量(予測)する。

- ・B サンガ イナケリヤ A サンワ タツツラニ。(Bさんがいなければ、Aさんは立った(立候補した)だろうに。)
- ・ユキガ ナケリヤ イマッゴロ ヘー タタツツラニ。(雪がなければ、今頃はもう建つただろうに。タタル=建つ)
- ・オメーモ イッショニ トンヅラ。(お前も一緒に走つただろう。トブ=走る)
- ・ユーベ ダイブ ノンヅラ。(タへ、だいぶ飲んだだろう。)

〈連体非過去形〉

連体非過去形は断定非過去形と同形で、「カク」「ミル」「クル」「スル」などとなる。

- ・カク トキ (書くとき)
- ・ダス トキ (出すとき)
- ・シヌ トキ (死ぬとき)
- ・シグ トキ (死ぬとき)
- ・ミル トキ (見るとき)
- ・クル トキ (来るとき)
- ・スル トキ (するとき)

この形は、次のように準体形としての用法を持っている(なお、次に挙げる連体過去形のほか、派生類でも連体の用法を持つものは同様と考えられるが、さらに確認したい)。

共通語において準体助詞「の」に連体非過去形が前接した際と同じような意味を動詞のみで表すことができるのが準体形である。語形は連体非過去形と同じである。体言化することで断定辞(いわゆる断定の助動詞)が後接し、語形変化(活用)することから、派生類として扱うのが妥当と考えられるが、本書の方針に従いこと「のだ形」に置いている。

体言化し、後に係助詞・格助詞が接続すると、名詞同様に助詞との融合も起こることがある。

- ・カクワ ダレダ。(書くのは誰だ。)
- ・カカ一 ダレダ。(書くのは誰だ。)
- ・ミルワ ダレデー。(見るのは誰だね。)
- ・ミラー ダレデー。(見るのは誰だね。)
- ・クルワ ダレデー。(来るのは誰だね。)
- ・クラ一 ダレデー。(来るのは誰だね。)
- ・スルワ ダレデー。(するのは誰だね。)
- ・スラー ダレデー。(するのは誰だね。)

〈連体過去形〉

連体過去形は断定過去形と同形で「タ」を付す形である。

- ・ケータ トキ (書いたとき)
- ・データ トキ (出したとき)
- ・シンダ トキ (死んだとき)
- ・ミタ トキ (見たとき)
- ・キタ トキ (来たとき)
- ・シタ トキ (したとき)

〈中止形〉

多段型動詞は基幹音便形に、一段動詞は基幹(=語幹)に、「来る」「する」はイ段形「キ」「シ」に、「テ」を後接する。

- ・サキヨー ノンデ ネル。(酒を飲んで、寝る。)
- ・シッテ ピックラコイタ。(知って、びっくりした(驚いた。))
- ・イテ ピックラコイタ。(いて、びっくりした(驚いた。))
- ・オキテ クサー カッタ。(起きて、草を刈った。)

〈仮定形〉

多段型は「カキヤ」など拗音ア段形、一段型は「ミリヤ」など「基幹+リヤ」、「来る」「する」は「クリヤ」「スリヤ」など「ウ段形+リヤ」となる。

- ・カキヤ ヨカッタ。(書けば良かった。以下の~ヨカッタは反実仮想)
- ・ミリヤ ヨカッタ。(見れば良かった。)
- ・モット ハヤク オキリヤ ヨカッタ。ツイネボー シチマッタ。(もっと早く起きれば良かった。つい寝坊をしてしまった。)
- ・クリヤ ヨカッタ。(来れば良かった。)
- ・スリヤ ヨカッタ。(すれば良かった。)

- ・マタ ヤルデ ミリヤ イー。((あの番組はテレビで再放送を) またするから、見れば良い。)
- ・カキヤ イー。(書けば良い。以下の～イーは、「〇〇してもよいか?」と尋ねられた際に「〇〇シテも構わない」の意で許諾を出すときの表現。)
- ・ミリヤ イー。(見れば良い。)
- ・オキリヤ イージャ。(起きれば良いよ。)
- ・クリヤ イー。(来れば良い。)
- ・スリヤ イー。(すれば良い。)

〈否定形〉

多段型動詞はア段形、一段型動詞は基幹、「来る」は才段形「コ」、「する」はイ段形「シ」に、「ネー」が付く。

- ・オラー カカネーゾ。(私は書かないぞ。)
- ・コンボコガ ナカナカ ネネーナエ。(赤ん坊がなかなか寝ないなあ。)
- ・シギソーダケンド マダ シガネー。(死ぬそうだけれど、まだ死はない。)

否定形の過去形は、「ナンダ」で表される。

- ・カカナンダ。(書かなかつた。)
- ・ミナンダ。(見なかつた。)
- ・コナンダ。(来なかつた。)
- ・シナンダ。(しなかつた。)

〈とりたて否定形〉

多段型は「カキヤ」など拗音ア段形、一段型は「ミリヤ」など「基幹+リヤ」、「来る」は「ウ段形+リヤ」のクリヤ、「する」は「イ段形+リヤ」のシリヤに、「シネー」が付く。「シネー」の前の形は仮定形に似ているが、「する」に異なりがある。事態の成立を強く否定する表現として用いられる。

- ・フツカモ メーニ ユットイタニ ダシャシネー。(二日も前に言っておいたのに出さない。)
- ・オラエノ マゴワ マダ タチャシネー。(うちの孫はまだ立たない。)
- ・アノ デークワ テガオセーデ イツツ タタリヤシネー。(あの大工は仕事が遅いので、まるで建たない。タタル=建つ)
- ・オメー トリヤシネー。(お雨が取ったのではないか。) / オラー トリヤシネーヨ。(私は

取らないよ。)

- ・ナンボ ユッテモ シリヤシネー。(いくら言ってもしない。)

〈確信否定形〉

多段型と「来る」「する」は「カキ」「キ」「シ」などイ段形、一段型は「ミ」など基幹に、「ツコネー」が付く。「～するわけがない」のような意味を表し、動作の否定を確信する表現として使われる。

- ・ヤロー ノ コンダデ テガミナンカ カキツコネー。(あいつのことだから、手紙なんか書くわけがない。)

- ・アンナ ショーニンズージャ クレマデニ タタリツコネー。((作業者が) あんなに少人数では、暮れ(年末)までに建つわけがない。タタル=建つ)

- ・イナゴノ アシオ モギッタデ アノ イナゴワ トビツコネー。(イナゴノ足を取ったので、あのイナゴは飛ぶわけがない。)

- ・アノ エワ ヨイッパリダデ マダ ネツコネー。(あの家は宵っ張りだから、まだ寝るわけがない。)

- ・ヤロー ノ コンダデ キツコネー。(あいつのことだから、来るわけがない。)

- ・ホンナコター シラズカ シツコネー。(そんなことは知るものか。するわけがない。)

〈丁寧形〉

場面に応じて、カキマス、ミマス、キマス、シマスなどの表現を用いることはあるが、当方言では、地域の知り合いどうしによる日常的な会話では丁寧形は現れない。

〈使役形〉

多段型はア段形に「セル」「ス」が付く。一段型は基幹、「来る」は才段形に「サセル」「ラセル」「スス」が付く。「する」はア段形にセルが付くが、「セル」接続のシラセルや「ス」接続のサスは用いられない。「セル」「サセル」「ラセル」形は一段型、「ス」「サス」形は多段型に準じた活用をする。

- ・ウチノ イヌモ トシ トッタデ シガセル。(うちの犬も年を取ったので、死なせる(ことにした)。)

〈受身形〉

多段型、「する」はア段形に「レル」が付く。一段

型は基幹、「くる」は才段形に「ラレル」が付く。「レル」「ラレル」形は一段型に準じた活用をする。

- ・モット ハナシオ キコート オモッタニ
ヘー サケオ ノンデ ネラレチマッタ。
(もっと話を聞こうと思ったのに、もう酒を飲んで、寝られてしまった。)

〈可能形〉

一つは、動作を可能・不可能にする条件によらず汎用的に使える形である。多段型のエ段形に「レル」「ル」を付ける。一段型のイ段形、「来る」の才段形に「レレル」「レル」を付ける。「する」は（該当形欠）とした（デキルが使える可能性があるが確認できていない）。これらの形は全て一段型に準じた活用をする。

- ・オラ ジガ ジョーズニ カケレルゾ。(俺は、字が上手に書くことができるぞ。)
- ・コノ ヘヤワ スコシ クライガ メガ イ
ーデ ヨメル。(この部屋は、少し暗いけれども、目がいいので、読むことができる。)
- ・コノ キノコワ クエレルゾ。(この茸は、食べることができるぞ。)
- ・アイツァー ナンボデモ クエレルゾ。(あいつはいくらでも食べることができるぞ。)
- ・アイツァー ショクガ ツエーデ ナンボデ
モ クエル。(あいつは、胃が丈夫なので、いくらでも食べることができる。)
- ・コイツァー マダ クエル。((賞味期限が切れているが) これはまだ食べることができる。(クエルは言わない。))
- ・イマカラ イッタジャ ヘー ミレレネーゾ。(今から行ったのでは、もう、見ることができないぞ。)
- ・コノ エーガワ オッカネーデ コドモワ
ミレネーワエ。(この映画は怖いから、子どもは見ることができないよ。)
- ・ジカン ネーデ ヘー イレレネー。(時間がないので、もう居ることができない。)
- ・ココワ アツクテ トテモ イレネー。(ここは、暑くて、とても居ることができない。)
- ・マダ ゴンテーデ オキレレネー。(まだ、疲れているので、起きることができない。)
- ・マダ ゴンテーデ オキレネー。(まだ、疲れているので、起きることができない。)
- ・ヒルネオ シチマッタデ ネレネーヤワイ。
(昼寝をしてしまったので、寝ることができない。)
- ・ガッコーエ アガッタデ ヒトリデ ネレレ
ルワナ。(学校にあがつた(入学した)ので、ひとりで寝ることができます。)
- ・ガッコーエ アガッタデ ヒトリデ ネレル
ワナ。(学校にあがつた(入学した)ので、

ひとりで寝ることができます。)

- ・クラノ トガ オモイケド アケレレルラ。
(蔵の戸が重いけれども、開けることができるだろう。)
- ・クラノ トガ オモイケド アケレルラ。(蔵の戸が重いけれども、開けることができるだろう。)

否定の形も同様である。

- ・コノ ペンワ インクガ キレタデ ヘー
カケネー。(このペンはインクが切れたので、もう書くことができない。(カケーネーは言わない。))
- ・コノ カワノ ミズワ ノメネー。(この川の水はノメネー。(ノメネーは言えない。))
- ・ベニタケワ クエネー。((毒のある)紅茸は、食べることができない。(クエーネーは使わない。))
- ・コイツァー ヘー クエネー。(こいつはもう食うことができない。)
- ・イマカラ イッタジャ ヘー ミレレネーゾ。
(今から行ったのでは、もう、見ることができないぞ。)
- ・コノ エーガワ オッカネーデ コドモワ
ミレネーワエ。(この映画は怖いから、子どもは見ることができないよ。)
- ・ジカン ネーデ ヘー イレレネー。(時間がないので、もう居ることができない。)
- ・ココワ アツクテ トテモ イレネー。(ここは、暑くて、とても居ことができない。)
- ・マダ ゴンテーデ オキレレネー。(まだ、疲れているので、起きることができない。)
- ・マダ ゴンテーデ オキレネー。(まだ、疲れているので、起きることができない。)
- ・ヒルネオ シチマッタデ ネレネーヤワイ。
(昼寝をしてしまったので、寝ることができます。)
- ・アノ コワ マダ チーセーガ ザーノ エ
オ ジョーズニ カケール。(あの子は、ま

もう一つは、いわゆる能力可能に該当する意味を持つ形である。多段型のエ段形長音に「ル」、一段型の基幹に「レール」、「来る」「する」のイ段形に「エール」を付ける。これも一段型に準じた活用をする。

だ小さいけれども、象の絵を上手に書くことができる。)

- ・アノ ヒトワ ムズカシ カンブンオ ヨメール。(あの人は、難しい漢文を読むことができる。)
- ・コノ ヘヤワ スコシ クレーガ メガ イーデ ヨメール。(この部屋は、少し暗いけれども、目がいいので、読むことができる。)
- ・アイツアー ショクガ ツエーデ ナンボデモ クエール。(あいつは、胃が丈夫なので、いくらでも食べることができる。)
- ・カゼモ ナオッタデ キョーカラ オキレル。(風邪も治ったので、今日から起きることができる。)
- ・ガッコーエ アガッタデ ヒトリデ ネレルワナ。(学校にあがった(入学した)ので、ひとりで寝ることができます。)
- ・クラノ トガ オモイケド アケレールラ。(蔵の戸が重いけれども、開けることができるだろう。)
- ・ガッコーエ アガッタシ トキヨーカラ ヒトリデ キエールラ。(学校に上がったし(入学したし)東京から一人で来ることができるものだろう。)

否定の形も同様である。

- ・コノ エーガワ オッカネーデ コドモワ ミレーネーワエ。(この映画は怖いから、子どもは見ることができないよ。)
- ・ココワ アツクテ トテモ イレーーネー。(ここは、暑くて、とても居ることができない。)
- ・マダ ゴシテーデ オキレーネー。(まだ、疲れているので、起きることができない。)

〈尊敬形〉

丁寧形と同様に、地域における日常会話では尊敬形は用いられない。

〈継続形〉

多段型動詞は基幹音便形に、一段動詞は基幹(=語幹)に、「来る」「する」はイ段形「キ」「シ」に、「テール」「テル」を後接する。一段型に準じた活用をする。

〈求心性授与形〉

求心性授与形は「～してくれる」を表し、多段型

動詞は基幹音便形に、一段動詞は基幹(=語幹)に、「来る」「する」はイ段形「キ」「シ」に、「テール」「テル」を後接する。すなわち、語形は継続形と同じで一段型に準じた活用をする。ただし、アクセントは異なることがある。もとの動詞が有核形の場合にはアクセントも同じであるが、もとの動詞が無核形の場合に違いが現れ(アクセント核を'で表示する)、「開ける」の場合、「アケテール」(継続形:アクセント0)／「アケテ'ール」(求心性授与形:アクセント3)、「する」の場合、「シテール」(継続形:アクセント0)／「シテ'ール」(求心性授与形:アクセント2)のようである。この形はかなり古い形らしいが、MY氏によると完全に使われなくなったわけでもなく、日常生活の中でもふと口にすることがあるとのことである。

- ・ザブトン シクデ タッテールカエ。(座布団を敷くので、立ってくれるか。)
 - ・オメー コトシモ トンデールカヤエ。(お前、今年も(運動会で)走ってくれるか。トブ=走る)
 - ・アシタ メズラシー モノ クレテール チューデ ナンカ ヨーイ シトケヤイ。(明日珍しい物を呉れ(てくれ)ると言うから、何か(返礼を)用意しておけよ。)
 - ・アノ テーカラ カワリニ イッテータ。(あの人の代わりに行ってくれた。)
 - ・アノ テーニ カワリニ トンデータ。(あの人が代わりに走ってくれた。トブ=走る)
- この形は希望形もあり、「書く」は「ケーテーテー」、「研ぐ」は「トイデーテー」である。直訳的には「書いてくれたい」「研いでくれたい」にあたることになるが、意味的には「書いてもらいたい」「研いでもらいたい」を表すようである。

なお、「～てくれる」(この方言では本動詞としての「くれる」は求心性・遠心性の区別がないが、補助動詞の場合はどうか、また)「～てやる」に基づく授与形については未確認のため、課題である。

〈求心性受納形〉

多段型動詞は基幹音便形に、一段動詞は基幹(=語幹)に、「来る」「する」はイ段形「キ」「シ」に、「テモロー」を後接する。

〈希望形〉

多段型動詞はイ段形、一段型動詞は基幹、「来る」「する」はイ段形の「キ」「シ」に「テー」が付く。

- ・アシタノ アサ ハヤク オキテーデ ゴハ
ンオ ハヤクシテクレ。(明日の朝は、早く起きたいので、ご飯を早くしてくれ。)

〈のだ形〉

連体非過去形と同形の準体形に断定辞が後接することで、「のだ形」相当の形になる。

- ・ベッドワ オレガ ネルダ。(ベッドには、俺が寝るのだ。)

- ・ダレガ クルダナエ。(誰が来るのだね。)

断定辞が「ズラ」の形をとると、「カクズラ」「ミルズラ」「クルズラ」「スルズラ」となり、推量を表す。この場合の推量は、事態の背景を推し量るものであり、共通語の「のだろう」に相当する。ただし、準体形の推量なので、「の」相当の部分は動詞に含まれており、ズラは「だろう」にあたる点に注意。

- ・イロイロ ウゴキガ アルデ タツズラ。(いろいろと動きがあるから、立つ(立候補する)のだろう。)

- ・チョーハリシテールデ シンヤガ タタルズ
ラ。(家の)敷地の水平出しをしているので、分家の新しい家が、建つのだろう。タタル=建つ)

- ・ナンデ アンナコト ユーズラナエ。(どうしてあんなことを言うのだろう。)

- ・マタ ミルズラデ ソノママニ シテオケヤ。
(本が開いたままになっている状態を見て)また、見るのだろうから、そのままにしておけよ。)

- ・アシタモ クルズラナエ。((仕事がやりかけのままになっている様子を見て)明日も来るのだろうな。)

- ・ソコニ ホンオ オイテアルデ ケーッテキ
テ ベンキヨースルズラ。(そこに本を置いてあるから、帰ってきて勉強するのだろう。)

この場合の過去推量形は、タズラで表され、終止類の推量過去形のツラとは意味が異なることになる。すなわち、タズラは「たのだろう」、ツラは「ただろう」にそれぞれ相当する。

- ・(相手から返事が届いたのを見て) オメーガ
ケータズラ。(お前が書いたのだろう。)

- ・(留守宅を確認して) トーキョーエ イッタズ
ラ。(東京へ行ったのだろう。)

- ・B サンガ アキラメタデ A サンワ タッタ
ズラ。(Bさんが立候補をあきらめたので、Aさんは立った(立候補した)のだろう。)

- ・ミンナ ハンタイシタニ ナンデ アンナト
コニ タタッタズラ。(皆が反対したのに、どうしてあんなところに建った(建ってしまった)のだろう。タタル=建つ)

- ・(自分の発言を反省しながら) ナンデ アンナ
コト ユッタズラ。(どうしてあんなことを言ったのだろう。)

- ・オメーガ ヤルト ユッタズラ。ユッタ ヨ
ーニ ヤレヤ。(お前がやると言ったのだろう。言ったようにやれよ。)

- ・ムカシワ ナンデ アンナニ トンダズラ。
(昔はどうしてあんなに走ったのだろう。トブ=走る)

- ・ムカシワ ウント ハヤク トンダズラニ
アシ ケガシテ ヘー トベネヤワイ。(昔はうんと早く走ったのだろうが、足にけがをして、もう走れないよ。トブ=走る)

- ・ニューインシタツツーゾ。エレー ノンダズ
ラ。(入院したという話だ。ずいぶんたくさん飲んだのだろう。)

- ・カメラサグテ イッタデ トッタズラ。(カメラを下げていったから、撮ったのだろう。)

- ・アノ ニュース ミタズラ。ヨク シッテル。
(あのニュースを見たのだろう。良く知っている。)

- ・アキヤニ ナッテルガ ニジューネンクレー
メーマデ イタズラ。(空き家になっているが、二十年くらい前までは、いたのだろう。)

- ・ヨジゴロ オキタズラ。オラ ションベン マ
ッテ マタ ネタワヤ。(四時頃起きたのだろう。自分は小便をシテ、また寝たよ。)

- ・ハウスノ ト一 シメトケト イッタニ ダ
レガ アケタズラ。(ビニールハウスの戸を閉めておけと言ったのに、誰が開けたのだろう。)

- ・キノーモ キタズラナエ。ダイブ スンデ
ルジャネーカ。(昨日も来たのだろう。だい

- ぶ進んでるじやないか。)
- ・エレー ホンオ ナラベテアルデ ベンキヨ
一 シタズラ。(ずいぶんと本を並べてあるから、勉強したのだろう。)

2. 形容詞・形容名詞述語・名詞述語の活用の特徴

【形容詞】

形容詞の活用は一つである。

〈断定非過去形〉

断定非過去形と連体非過去形は同形で、語幹に「イ」を付ける。語幹末母音が a の場合に母音の融合により e の長音が現れる。

〈断定過去形〉

「アカカッタ」など、語幹に動詞的な接辞「カッタ」を付す。

〈推量形〉

「アケーラ」など、断定非過去形に接辞「ラ」を付す。

〈連体非過去形〉

連体非過去形は断定非過去形と同形で、語幹に「イ」を付ける。

- ・アケー モン (赤い物。)
- ・タケー モンダナエ (高い物だなあ。)

この形は、次のように準体形としての用法を持っている。

動詞と同様に、共通語において準体助詞「の」に連体非過去形が前節した際と同じような意味を形容詞のみで表すことができるのが準体形である。語形は連体非過去形と同じである。体言化することで断定辞が後接し、語形変化（活用）することから、本来は派生類として扱うべきであるが、本書の方針に従い、ここに含めている。

- ・イロガ アケーワ ドッヂダ。((顔の) 色が赤いのは、どっちだ。)
- ・タケーワ ドッヂダナエ。(値段が)高いのは、どっちだね。)

〈連体過去形〉

連体過去形は断定過去形と同形で、語幹に「カッタ」を付す。

- ・アカカッタ モンダケ エラベヨ。(赤かった物だけ選べよ。)
- ・タカカッタ モン (高かった物。)

〈中止形〉

中止形は、語幹に「クテ」を付す。

- ・タカクテ コマッタ。(高くて困った。)

〈仮定形〉

仮定形は、語幹に「ケリヤ」「キヤー」を付す。

- ・アカケリヤ イーニナエ。(赤ければ良いのになあ。)
- ・アカキヤー イーニナエ。(赤ければ良いのになあ。)
- ・タカケリヤ イーニナエ。(高ければ良いのになあ。)
- ・タカキヤー イーニナエ。(高ければ良いのになあ。)

〈否定形〉

否定形は、語幹に「ク」もしくは「カ」を付し、さらに「ネー」を付す。そのため、二つの形がある。「カ」は、とりたて形の「クワ」(くは)からの変化であるが、「ク」形と「カ」形の用法の異なりはあまり顕著ではなく、「カ」形の方が想定に反しての事態を表すようなニュアンスをともなうことがある。なお、「カ」形は、「クワ」からの変化の名残で長音を伴うこともある。

- ・アカカーネー。(赤くない。)
- ・タカカーネー。(高くない。)

否定形の過去形は「クナカッタ」「カナカッタ」（また「カーナカッタ」）を付す。

- ・アカクナカッタ。(赤くなかった。)
- ・アカカナカッタ。(赤くなかった。)
- ・アカカーナカッタ。(赤くなかった。)
- ・タカクナカッタ。(高くなかった。)
- ・タカカナカッタ。(高くなかった。)
- ・タカカーナカッタ。(高くなかった。)

〈なる形〉

なる形は、語幹に「ク」を付し、さらに「ナル」を続ける。

〈丁寧形〉

当方言では、地域の知り合いどうしによる日常的な会話では丁寧形は用いられない。

〈のだ形〉

連体非過去形と同形の準体形に断定辞が後接することで、「のだ形」相当の形になる。

断定辞が「ズラ」の形をとると、推量を表す。動

詞と同様に、この場合の推量は、事態の背景を推し量るものであり、共通語の「のだろう」に相当する（準体形の推量なので、「の」相当の部分は形容詞に含まれており、ズラは「だろう」にあたる）。

- ・アケーズラ。（赤いのだろう。）
- ・タケーズラ。（高いのだろう。）
- ・ウレシーズラ。（うれしいのだろう。）

【形容名詞述語・名詞述語】

形容名詞述語と名詞述語は、基本的に同等であるが、連体非過去形のように双方が異なるもの、のだ形のように形容名詞述語では使用しづらいものなどがある。なお、調査の都合で、指定された「学生」ではなく、「雨」を代表語にしたことをことわっておく。また、以下の用例で形容名詞述語として現れる「おしゃ」は断定非過去形がオシャダで「おしゃれだ」を意味する。

〈断定非過去形〉

形容名詞述語、名詞述語ともに「ダ」を付す。

- ・オシャダ。（おしゃれだ。）
- ・トリダ。（鳥だ。）

〈断定過去形〉

形容名詞述語、名詞述語ともに「ダッタ」を付す。

- ・オシャダッタ。（おしゃれだった。）
- ・トリダッタ。（鳥だった。）

〈推量形〉

形容名詞述語、名詞述語ともに「ズラ」を付す。

- ・オシャズラ。（おしゃれだろう。）
- ・トリズラ。（鳥だろう。）

〈連体非過去形〉

形容名詞述語の連体非過去形は、「ナ」もしくは「ン」を付ける。ただし、語によっては「ノ」を付ける場合もある。次に例として挙げた「静か」は「ノ」を付けることがなく、一方で「おしゃ」は「ン」を付けることがない。

- ・シズカナ トコ。（静かなところ。）
- ・シズカン トコ。（静かなところ。）
- ・オシャナ カッコー。（おしゃれな格好。）
- ・オシャノ カッコー。（おしゃれな格好。）
- ・オシャナ ヒト。（おしゃれな人。）
- ・オシャノ ヒト。（おしゃれな人。）

名詞述語は「ノ」を付ける。「ノ」は、被修飾語の

語頭が鼻音の場合は「ン」になることがある。

- ・アメノ ヒ。（雨の日。）
- ・トリノ ス。（鳥の巣。）
- ・ヤマノ キオ キル。（山の木を切る。）
- ・ヤマン ナケ。（山の中へ。）

〈連体過去形〉

形容名詞述語、名詞述語ともに「ダッタ」を付ける。

- ・シズカダッタ トコ。（静かだったところ。）
- ・オシャダッタ ヒト。（おしゃれだった人。）
- ・アメダッタ トキ。（雨だったとき。）

〈中止形〉

形容名詞述語、名詞述語ともに「デ」を付ける。

- ・シズカデ イーナエ。（静かでいいねえ。）
- ・オシャデ イーナエ。（おしゃれでいいねえ。）

〈仮定形〉

形容名詞述語、名詞述語ともに「ナラ」を付ける。

- ・シズカナラ ヨカッタ。（静かなら良かった。）
- ・シズカナラ ヨク キコエタニ。（静かなら良く聞こえたのに。）
- ・オシャナラ ヨカッタニ。（おしゃれなら良かったのに。）

〈否定形〉

形容名詞述語、名詞述語ともに「ジャネー」を付す。

- ・シズカジャネー ナエ。（静かではないねえ。）
- ・オシャジャネー ナエ。（おしゃれではないねえ。）
- ・アシター アメジャネー。（明日は雨ではない。）

〈なる形〉

形容名詞述語、名詞述語ともに「ニナル」もしくは「ンナル」を付す。

- ・オシャニナル。（おしゃれになる。）
- ・オシャンナル。（おしゃれになる。）

なる形の過去形は「ニナッタ」もしくは「ンナッタ」を付す。

- ・シズカニナッタ。（静かになった。）
- ・シズカンナッタ。（静かになった。）
- ・オシャニナッタ。（おしゃれになった。）
- ・オシャンナッタ。（おしゃれになった。）
- ・アメニナッタ。（雨になった。）
- ・アメンナッタ。（雨になった。）

〈丁寧形〉

形容名詞述語、名詞述語ともに「～です」(たとえば、「雨です」)のような言い方は、使うと気取ったようないいかたになってしまい、地域の知り合いどうしの日常会話では使わない。

〈のだ形〉

「ナンダ」を付す。形容名詞述語の場合、のだ形は使えないことはないが、新しい言い方で、方言としてはやや不自然な感じがあり、以下の用例のように使えないことはないが、以前は使わなかつたように思われるとのことである。そのため、活用表には(該当形 欠)とした。なお、形容名詞述語において、シズカナダのような形はない。

- ・ウラドーリワ ムカシカラ シズカナンダ。
(裏通りは昔から静かなのだ。)
- ・ホーカ アサッテモ アメナンダ。((雨が続く天気予報を見て) そうか、明後日も雨なんだ。)

参考文献

- 糸萱区誌編纂委員会編 (2011) 『糸萱区誌』糸萱区
茅野市 (1988) 『茅野市史 下巻 近現代・民俗』茅
野市
長野県 (執筆:馬瀬良雄) (1992) 『長野県史 方言
編』長野県史刊行会
長野県諏訪実業高等学校地歴部 (1961) 『諏訪方言集
—長野県諏訪地方—』
馬瀬良雄 (2003) 『信州のことば—21世紀への文化
遺産—』信濃毎日新聞社
(大西拓一郎)